

生物多様性

304-2

基本的な考え方・方針

ユニ・チャームが提供する商品やサービスの多くは、衛生的な日常生活に欠かせない消費財です。同時に、これらの提供には資源の利用や廃棄物の発生など、地球環境と生物多様性の保護は密接な関係にあると認識しています。事業活動が生物多様性に与える影響を理解した上で、事業展開の継続と「人と自然が共生する未来」を守る活動につながる持続可能な資源の利用を推進します。特に当社が原材料に多く用いているパルプなどの森林資源については管理された森林から資材を調達し、違法伐採材を排除し、地域住民と労働者の権利保護などに努め「生物多様性の主流化」に貢献します。

▶ 「環境目標2030」森林破壊に加担しない(調達対応)の目標、実績(「環境目標2030」より抜粋)

環境課題	実施項目	基準年	2021年目標	2021年実績	2022年目標	2030年目標	2050ビジョン
森林破壊に 加担しない (調達対応)	パルプ、パーム油の原産地(国・地域) トレーサビリティ確認	—	森林由来 原材料： 98% ^{※1} パーム油： 80%	森林由来 原材料： 97% ^{※1} パーム油： 77%	森林由来 原材料： 98% ^{※1} パーム油： 80%	完了	購入する木材について 自然森林破壊 ^{ゼロ} 社会 の実現
	認証パルプ(PEFC・CoC認証)の 拡大	—	認証工場数 比率： 50% ^{※2} 認証材調達 比率： 60% ^{※3}	認証工場数 比率： 56% ^{※2} 認証材調達 比率： 70% ^{※3}	認証工場数 比率： 60% ^{※2} 認証材調達 比率： 75% ^{※3}	100%	
	認証パーム油(RSPO)の拡大	—	80%	77%	80%	100%	
	紙おむつリサイクル推進	—	—	開発継続	開発継続	10以上の自治体で展開	

※1 第三者認証材に加え、原産地(国・地域)トレーサビリティ確認ができた森林由来原材料比率。森林由来原材料は、パルプ、ティッシュ、セパレーター、エアレイドパルプが含まれます。

※2 当社工場におけるCoC認証取得工場数の比率。

※3 第三者認証材の森林由来原材料比率。森林由来原材料は、パルプ、ティッシュ、セパレーター、エアレイドパルプが含まれます。

生物多様性におけるリスクと機会

当社のリスクとして、①資源(特に紙・パルプ、パーム油および農作物)調達時に発生する生物多様性への負の影響による資源調達の不安定化・操業率の低下や、調達コストが不安定化するおそれ、②自社拠点の操業時に発生する生物多様性への影響による原状回復のための費用発生、操業停止や消費者の買い控えが発生するおそれがあります。

一方、当社の機会として、①持続可能な認証材の積極的な活用によって資材の安定調達やコストの抑制につながること、②小売業との協働で生物多様性に配慮した商品の提供による売上拡大が期待できます。

マネジメント体制

当社は年4回、社長執行役員を委員長としたESG委員会で環境活動、品質課題、社会的課題やガバナンス上の重点課題について計画と進捗を共有しています。具体的な計画については、TCFDの提言に基づき、「環境目標2030」、中長期ESG目標「Kyo-sei Life Vision 2030」に沿って報告を行っています。また、社外の専門家や有識者との意見交換を通じて、生物多様性に関する課題認識やマテリアリティの特定、見直しを行うことで課題形成を行い、活動の指標を設定しています。森林由来原料については、ESG本部と購買部門が協働で持続可能性が担保された第三者認証原料への切り替えを進めており、進捗については、ESG委員会で報告しています。

また生産拠点のある地域の生物多様性に対する影響を最小限に抑えるために、産業廃棄物の一時保管場所の管理や処理業者の確認および排気や排水の測定を行っています。

取り組み・実績

102-13,102-21

有識者との意見交換会

2019年4月、当社を取り巻く社会課題における中長期の重要課題についてWWFとダイアログを実施しました。気候変動(省エネ、再生可能エネルギー、カーボンプライシングなど)、プラスチック汚染(現在の状況と今後の展開)、森林破壊(紙・パルプ、パーム油などの状況、今後の展開)について幅広いご意見をいただき、「環境目標2030」を策定しました。特に、森林破壊については、森林の減少を引き起こさないために、方針やガイドラインの対象範囲を拡大することや森林認証材の原産地を調査し結果情報を開示することの重要性など、幅広くご意見をいただきました。

2018年には、NGOのFSC®ジャパン、一般財団法人地球・人間環境フォーラム、また、環境省環境情報開示基盤整備事業において、アムンディ・ジャパン株式会社、野村アセットマネジメント株式会社とも意見交換会を実施しました。森林資源を使用する企業として、現地で発生している状況についてNGOやNPOから情報を入手しながら、透明性の高いサステナブルな活動を進め、パートナーシップを組んで目標の達成に貢献していきます。

P.037 環境マネジメント>「環境目標2030」について

国際森林認証制度PEFC CoC認証の取得

2020年にインドネシア、タイ、日本の工場において国際森林認証制度PEFCのCoC認証を取得しました。2021年には韓国、マレーシア、アメリカ、台湾-大中華圏の工場が認証を取得し、対象全25工場のうち14工場での認証取得を完了しました。さらに、PEFCロゴマークつき商品も順次発売しており、ソーシャルメディアやWebサイトで、商品に含まれる全パルプがCoC認証の連鎖によって調達されたPEFC認証材であることを紹介することで、消費者の認知度向上にも努めています。



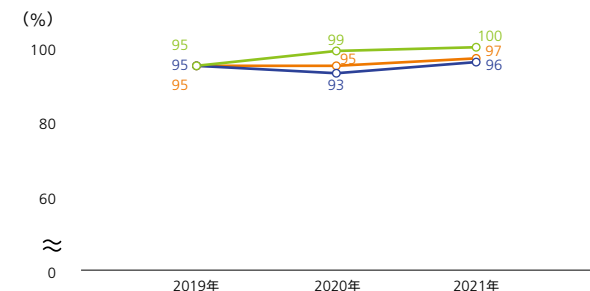
▶ CoC認証取得一覧

国名	工場名	認証取得年
インドネシア	カラワン1・2工場、イーストジャワ工場	2020年
タイ	バンコク工場	2020年
日本	福島工場・静岡工場・四国工場中央製造所・四国工場大野原製造所・九州工場	2020年
韓国	亀尾工場	2021年
マレーシア	DSGマレーシア工場	2021年
アメリカ	プレザントブレイン工場	2021年
台湾-大中華圏	竹南工場	2021年

PEFC等の持続可能な森林資源の調達推進

当社商品に使用している紙・パルプの中でPEFCなど持続可能な原産地トレーサビリティ比率は以下の通りです。

▶ 原産地トレーサビリティ比率



— 日本実績 — 海外実績 — 日本・海外合計

P.063 環境データ>紙・パルプ

事務用紙の認証材比率

オフィスで使用する事務用紙も環境配慮を心がけています。2021年は認証材を使用した事務用紙が98.5%、古紙配合100%品が1.0%となり、合わせて99.5%が環境配慮品です。残り0.5%の対応を図り、100%を目指します。

FSC®認証紙の取り組み

当社の商品(マスクや生理用タンポン、キャットフードなど)の紙パッケージおよび段ボールに国際的な森林認証制度FSC®の認証紙を使用しています。



FSC®認証紙を使用した紙パッケージ

FSC®認証普及の取り組み

当社はFSC®の普及啓発を行うFSC®ジャパンに協力し、2021年12月～2022年3月に開催された「FSC学習プログラム「未来の森を守るFSCマーク-知って学んでアクションにつなげよう-」と「第3回FSCアワード」に協賛しました。SDGsが教育現場で取り上げられる機会が増え、中高生の環境・社会問題への関心は年々高まってきています。より正しく・深く森林保全やFSCマークについて学ぶことや、FSCマークの普及アイデアの募集を通じて、持続可能な社会の実現に向けて共に行動することを目指しています。



持続可能な第三者認証取得パーム油の使用量

2021年はマスマランス方式※によるRSPO認証油の使用を拡大して、パーム油使用量152tonのうち117tonの認証油を調達し、調達率は77%でした。今後も品質・調達ルートを確認しながら持続可能な調達活動を続け、当社が購入する全てのパーム油をRSPO認証油に切り替えていきます。

※ 認証農園で生産された認証油が流通過程で他の非認証油と混合される認証モデル。物理的には非認証油を含んでいますが、購入した認証農園と認証油の数量は保証されます。

P.063 環境データ>パーム油

【日本】オーガニック商品の提供・拡大

当社は、環境に配慮した商品づくりの一環として、オーガニックコットンを配合した商品を製造しています。オーガニックコットンは、土壌や水質などへの環境的負荷を最小限に抑え、農場で働く人々の安全や児童労働の排除など社会的規範を守って製造されたコットンです。現在は、『ナチュラルムーニー』『ナチュラルムーニーマン』『ソフィ オーガニックコットンシリーズ』などにオーガニックコットンを使用しており、今後も商品数を拡大していきます。

▶ オーガニックコットンを使った商品数

	商品数
2019年	18
2020年	22
2021年	23

植物由来成分を使用した商品の提供・拡大

P.032 重要取り組みテーマ 地球の健康を守る・支える>プラスチック使用量の削減

廃棄物管理

P.052 汚染予防と資源活用>取り組み・実績

水系への排出モニタリング結果

法規制および自社基準の違反はありませんでした。

P.059 水資源>水質・土壌汚染・悪臭

大気への排出モニタリング結果

P.054 汚染予防と資源活用>大気汚染対応

CDP※「フォレスト」評価

当社は国際的な非営利団体であるCDPから2021年の活動について「B」(マネジメントレベル)の評価を受けました。評価結果より課題を明確にし、より一層生物多様性に配慮した活動を推進していきます。



	2019年	2020年	2021年
フォレスト	B	B-	B

※ グローバルに環境に関する調査実施、情報開示を行い、持続可能な社会の実現を図る国際NGO

P.050 気候変動(TCFDに基づく開示)>CDP「気候変動」評価

P.059 水資源>CDP「ウォーター」評価